

日時:6月11日(火)12:10 - 12:40

場所:パレスチナ自治政府首相官邸

ラーミー・ハムダッラー パレスチナ自治政府首相

笹川陽平 日本財団会長

山下マサフミ 在パレスチナ自治政府日本代表部

内容

笹川:ハムダッラー首相の就任に祝意を表したい。また急な面談要請に対応していただき、深く感謝する。現在は、ハッサン王子を通じてWANA会議の開催を5年前から支援している。本日午前にはジェリコにある農産加工団地(JAIP)を視察した。

2012年11月30日における「国連におけるパレスチナの地位に関する総会決議」採択にあたっての日本国政府の投票行動を見てもご理解いただけると思うが、日本とパレスチナは極めて近い関係にある。日本国民のひとりとして、ジェリコのプロジェクトの成功を祈っているところである。また近日中に岸田外務大臣がパレスチナを訪問する予定である。訪問を契機にいつそう関係強化が図られることを願っている。

ハ首相:会長一行を歓迎する。1993年にまで遡る累計2億5000万ドルに及ぶ日本政府のパレスチナへの支援に感謝する。教育、保健医療、学校・病院建設、機材などの支援など多岐にわたる支援は国家建設の途上にある我が国にとって非常に重要である。引き続き支援をお願いしたい。日本との関係においてはとりわけ高等教育、訓練をはじめとする教育分野における協力を期待している。パレスチナには資源がなく、人材への投資しか発展の術がない。

笹川:日本も人材しか資源がなく、人材へ投資をする重要性はよく理解している。私もこの国では人材を一人育成した。隣に座っている欧州局長である。総理の対外関係にかかわる見解を伺いたい。

ハ首相:政府と大統領府は良好な関係にある。和平プロセスは進めなければならない。現在ケリー国務長官が仲介をしているが、我々が交渉のテーブルに付くことができる条件を揃えてほしい。我々は「二国家構想」(two-state vision)を信じている。入植はこの構想を破壊する行為である。パレスチナ人にとって、エルサレムを首都とすること、全ての政治犯の釈放などは重要なことである。中にはオスロ合意の前から投獄され、まだ解放されていない者もいる。ネタニヤフ首相はまず経済発展を果たしその後に政治の安定化の方策に取り組もうと言っているが、我々としては、それらは同時に追求するべきであると要求している。

我が国は金融危機の余波を受け、投資、収入なども激減するなどの状況にあるが、オブザーバー国家から独立国への道を歩みたい。そのための準備を粛々と進めているところである。具体的には観光産業、農業の振興などを重視している。人材への投資は日本と協力できる分野であろう。学術交流などは今すぐに始めることができる。

菅川: 近いうちに訪日を考えてほしい。今年中の訪日は可能か。安倍政権は久々の安定政権である。7月の選挙にも必ず勝つと見込んでいる。この機会を活用してほしい。

ハ首相: スケジュールを見て判断する。

菅川: ハマスとの関係をどう捉えているか。

ハ首相: ガザ地区は他の地域と同様我が国の一部である。是非ともその立場を支持してほしい。年内に統一選挙の実施を希望する。8月にカイロですべての関係者が参加する決定的な会議がある。この会議で協議が進展することを望む。私は選挙委員会の職にあったことがあるが、選挙は人々の権利を表出する貴重な機会である。ハマスにも選挙に反対する理由はないはずである。選挙も和解の道の一つであると考えている。